

## 1. はじめに

創世記1章には、神がどのように天地万物を創造なさったかということが具体的に記されています。しかし、間違えてはならないことは、創世記の物語は決して自然科学の本ではないということです。ここで言われている創造の御業の具体的描写は、決して自然科学的な真理を伝えようとしているのではありません。ここで教えられていることはもっと根源的なことです。つまり、この世界の一つひとつの秩序は決して神の意思と無関係に存在するのではないということです。本来この被造物世界は、神の愛と祝福の下で秩序正しく創造された善い世界であるということです。

## 2. 神の愛による秩序ある世界

創造主である神はこの世界のすべてのものを六日間で創造されました。しかし、これは現代人の時間感覚である一日を24時間とした上で、神は六日間で、すなわち144時間で世界全体を創造なさったということではありません。ここで「第一の日」とか、「第二の日」という場合に使用されている「日」（ヨーム）という言葉は、「時」という意味を持つ言葉です。つまり、ここで大切なことは、創造主である神はこの世界を無から一瞬に造られたのではなく、時の区別の中で、慎重に時間的な順序を踏んで造られたということです。つまり、神は天地万物を十把ひとからげに扱われる方ではなく、一つひとつの順序をよく考え、一つひとつのものに心を配って創造なさったということです。

そのことは創世記1章に記されている創造の順序をよく見ると分かります。そこには被造物に対する深い配慮があります。というのも、神は第一日目に光を創造し、光と闇を分けることにより時間的秩序を造られました。第二日目に天を創造し、天と地を分けることにより垂直的な空間を造り、第三日目に地上において水を一箇所に集めることにより海と陸を分け、水平的な空間を造られました。こうして神は第三日目までに被造物世界の時

間的・空間的基本秩序をしっかりとお定めになったのです。そして、神はそのような秩序を創造なさった上で、植物を造り、水と空と地に住む動物を造り、最後に人間を造られました。つまり、神はすべての生き物が最も相応しい環境で増えて、満ちて行くことができるような順序で被造物を創造なさったということです。私たちは創世記にある神の創造の御業とその順序を見るとき、被造物に対する神の深い愛と配慮を教えられます。

なお、太陽、月、星などの天体の創造が植物と動物の間に記されていることは、何か科学と矛盾するかのように感じるかもしれませんが、しかし、そもそも創世記は科学的真理を教えるために書かれてはいません。創世記が天体の創造をこの箇所に記しているのは、天体を神々と考え礼拝していた古代社会の人々に対して、天体もまた神の被造物であるということを教えるためであると考えられます。

## 3. 善き創造の世界

神が深い愛と配慮を持って創造なさった世界は、当然ですが素晴らしい善き創造の世界です。そのことは、この創世記1章の記事の中に、「見て、良しとされた」という言葉が六回も使用されていることから分かります（1:4, 10, 12, 18, 21, 25）。つまり神は、創造なさったものをその都度よく見て、それが良い状態であることを確認しながら創造なさったのです。そして、創世記1章31節では、神が造られたものすべてをご覧になった時、「見よ、それは極めて良かった」とあります。

この世界の中に本来、良くないもの、悪いもの、必要のないものは何もありません。すべての被造物が神の善き創造の賜物として造られているのです。そうである以上、すべての被造物は創造主である神の栄光を表すものとして存在しています（民数記14:21、詩編72:19）。

確かに、今私たちの世界は人間が犯した罪によって墮落しています。しかし、本来この世界は神の愛による善き創造の世界として造られていることを忘れてはなりません。（弓矢健児）

テキスト 創世記 1章6～24節  
カテキズム 子どもカテキズム 問11, 12

### 〔単元のねらい〕

創世記は、徹底して、御言葉の力を物語ります。神は、みことばによって、ご自身の御心を狂いなく実現させ、無から有をあらしめます。それゆえに、被造物をご覧になって自ら、「良し」と宣言されました。神ご自身が、満足し、「すばらしい！」と声を挙げられたのです。それほどまでに、被造物はすばらしい神の作品なのです。私たちもまた、神と共に、世界を、被造物のすべてを「すばらしい！」と感動できる信仰の感性を磨くことが大切です。また、創造物語は、進化論を教えられた子らにとって、躓きを与えるものとなります。(中学科以上は、分級などで進化論についてきちんと説明する必要があるでしょう。) 創世記は、科学の知を明らかにする教科書ではありません。神の英知、救いの真理は、物語(作り話ではありません)によって明らかにし得るのです。展開例には、メッセージがたくさん込められていますが、取捨選択してください。

## 「なんてすばらしい世界！」

世界ははじめ、混沌だったと書いています。コントンって、何でしょう。この礼拝堂は、コントンとしていません。先生がお話しする場所があるし、皆さんは、きちんと並べてある椅子に座っています。整理整頓され、お掃除も行き届いたきれいな礼拝堂ですね。コントンというのは、バラバラ、ぐちゃぐちゃっていうかんじです。もし先生もみんなも、あっちに座ったり、こっちに立ったり、しかもぐるぐる動き回ったりしていたら、そんな場所では、落ち着いてお話も聴けませんね。しかも、なんとそこは、真っ暗闇。もう、めちゃくちゃな場所です。

しかし、やがて神さまは、ついに、外に向かって、御言葉を発せられました。どんな言葉ですか? 「光あれ」です。「光あれ」いったい、どんな響き、どんな感じでおっしゃったのでしょうか。ともかく、そのとき、たちまち光が射したのです。

神さまが最初に造られたのは、光、暖かい光、命の光です。こうして、世界は明るくなりました。しかも、神さまは、この光をご覧になって、「良い」「すばらしい」とおっしゃって、ご満足なさいました。たった一回、一発で、完璧にすばらしい作

品がつくられました。さすが、神さまはすごいです。光、明るい世界、光のある世界は、生きるために、絶対に必要なものです。

先生は、ここで言われていることを、いったいどんな光景なのかと想像してみますが、ちょっとイメージがつかいません。誰か、映画監督とか、画家になって、目に見えるようにしてくれるとうれしいですが、とにかく、コントンではなくなったということなんだと思います。

こうして、世界は、その第一日目で、神さまが計画された通りに造られたわけです。さらに、第二目、第三日目、第四日目、第五日目、そして人間が造られた第六日目と、コントンではなく、順序よく、一つひとつを丁寧に、慎重に積み重ねるように造られたのです。そして、その目標、目的は何ですか。来週、学びますが、僕たち私たち人間を創造する、いわば準備のためでした。人間が生きるためのすばらしい楽園とするためでした。

それなら僕たち私たちもまた、神さまと一緒に、「なんて、すばらしい世界。なんて、きれいなんだろう。美しいだろう！」って、思えたら素敵ではないですか。名古屋の街の中は、ビルが多くて、「わぁー、きれいだなぁ！」って息を飲むよ

うな美しい自然はありません。でも、きれいな海を見たり、山に登って雲や空、そしてまわりの景色を見たりすると、「わあー、すごい！」って叫びたくなるようなことはありませんでしたか。先生は、そんなとき、神さまが造られた匂い、雰囲気が残っているような気がします。そして、そのような美しいものを見ると、心が感動し、自分の心まできれいになるように思います。神さまを知っている僕たち私たちですから、神さまの造られた世界を、美しい、すばらしいと感じる心を、大切にしたいと思います。

さて、神さまが世界をお造りになられ、大空、地、海、草花、果物を実らせる木、太陽や月、魚、鳥、動物などを造って行かれました。さて、その方法は、なんでしょうか。先ほども言いましたね。第一の日である、第二の日である、第三の日である、第四の日である、第五の日である。第六……、ずっと繰り返されている、フレーズ、「決まり文句」があることに気付きませんか。

3節、「神は言われた」、「光あれ」、「こうして光があった」。次に、6節、「神は言われた」、「そのようになった」。次もまた、「神は言われた」、「そのようになった」。その次もまた同じですね。「神は言われた」、「そのようになった」。それが、31節、第六の日まで続くのです。

なんだか、創世記を書いた人は、これでもか、これでもかって、ちょっと、くどすぎない？ と思ってしまうほどです。

でも、それは、これを読んでいる僕たち私たちに、絶対伝えたいことがあるんだなって思いませんか。絶対、忘れてはいけないよって、伝えたいだなんて思います。それは、なんでしょうか。それは、神さまのみことばには、力がある、必ず実現する、だから、御言葉をあなたも聴きなさい。御言葉を聴いて信じなさい。そのとき、あなたの

上にも、神さまの、ご計画、すばらしい！ ご計画、良いご計画、美しいご計画が実現するということです。

さて、今朝の暗唱聖句をもう一度、唱えましょう。パウロ先生の言葉です。「神がお造りになったものはすべて良いもの」、「感謝して食べるなら何一つ捨てるものはない」。人間が食べれるものは、神さまに感謝のお祈りをして食べるなら、すべて食べてよいし、良いものだよ、というのです。キリスト教には、あれを食べたらダメ、これをやったら罰があたる、こうしないとダメ、そんな掟は、ありません。神さまがお造りになられたものは、良いもの、すばらしいものだ、言うのです。

そこで大切なのは、「感謝して」という御言葉です。感謝しないと、良いことなのに、良くなってしまうというわけです。感謝するということは、神さまが祝福してくださった食べ物だということ、忘れないということです。良いものは、神さまが良しとされたのですから、良いものの源、神さまを忘れたら、せっかくの良いものも良いものでなくなる場合があるというわけです。

つまり、神さまからの御言葉のすばらしい祝福を受けるためには、感謝が必要だということです。感謝とは、お祈りのことです。犬や猫は、食べる時、お祈りしますか。しません。それは、悪くありません。でも、人間は、御言葉を理解し、信じていることができます。神さまのみことばによって、造られた人間は、なんと、自分も言葉をしゃべれる特別な生き物なのです。その言葉は、何のために与えられたのですか。神さまに感謝するため、お祈りするためです。それが、言葉の一番大切な使い道です。だから、今日の日曜日、僕たち私たちは、お祈り、礼拝をささげるのです。最後に、お祈りしましょう。（相馬伸郎）

---

[今週の暗唱聖句] テモテへの手紙一 4章4節

というのは、神がお造りになったものはすべて良いものであり、  
感謝して受けるならば、何一つ捨てるものはないからです。

---

ねらい：全てのものを造られた神様に感謝する  
視覚教材：紙芝居。又は厚紙、黒、水色の画用紙。

土（茶色の画用紙）、雲、植物や太陽、月、魚、鳥、動物などをプリントアウト。スプレーのり（100円ショップの貼って、はがせるもの使いやすい）

### 【メッセージ前の準備】

厚紙（又は段ボール）の表に黒、裏に水色の画用紙をはり、天地創造の舞台にする。土や空の雲、植物や太陽、月、魚、鳥、動物などをプリントアウトしたものをカットし、スプレーのりをつけ貼り付けられる準備をする。

子ども達に小道具（植物、魚、鳥など）を渡しておいてお話の途中で貼ってもらう。

### 【メッセージ】

すべてのものには、はじめがあります。みんな目を閉じて、両手で耳をふさいで、何もない所を想像できますか？ 空もない、人もいない。何もありませんでしたが、ただ神様だけがおられました。

はじめの日、神様は何を造られたか覚えていますか？「光（よ）。あれ」と言われました。すると光ができました。神様はそれを昼と呼ばれ、闇を夜と呼ばれました。

二日目、神様は天空（青い空と雲）と水を分けられ、三日目には地を造られました。神様は水を集め海とし、地があらわれ、山や丘を造られました。また神様が言われた通り、いろいろな色の花や、草、野菜、高い木、強い木、木にはフルーツ

も育ちました。神さまはすべてを見て、「よくできた」と言われました。

四日目には、神様は何を造られたでしょうか？ 神様は昼に太陽を造られ、夜には月を、そして沢山の星も造られました。しかし神様はこれですべてにはされませんでした。

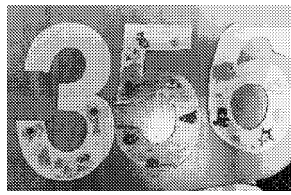
五日目には、神様は鳥と海の生き物を造られました（鳥や魚を子どもたちに一枚ずつ渡し貼ってもらって、何の生き物か名前を言ってもらってもよい）。

六日目には、神様はもっとたくさんのもを造られました。地を様々な動物でいっぱいにしました。

鼻の長いぞうや首の長いきりん、もこもこ羊やすどい牙のライオンなど……動物の名前を言ってもらおう。どこを見ても動物だらけ。しかしまだこれで終わりません。神様は次に何を造ったでしょう？ このつづきはまた次回にお話しします。

### 【工作】

材料：わた（雲用）、花・鳥・星・魚・動物などのシール、色紙（太陽・月）4月2日に切ってもらった1から7の数字を出し、2から6までを仕上げていく。2日目の2にはわたをポンドではる。3日目の3には植物（花や木）のシールをはる。4日目の4には星と月、太陽をはる。5日目には鳥と魚のシール、6日目には動物シールをはる。適当にペンで絵を描いてもらったりすることで、子ども達の世界が広がると思います。



創世記1:6~25をよみましょう。

1. だい2の日につくられたのはなんですか？

2. だい3の日につくられたのはなんですか？

3. だい4の日につくられたのはなんですか？

4. だい5の日につくられたのはなんですか？

5. かみさまはつくられた生きものになんと言いましたか？

6. かみさまはどんなほうほうでせかいをつくりましたか？

7. かみさまがつくられたものは、いまのわたしたちにもかんけいがありますか？

創世記1:6~25を読みましょう。

1. 第2日に神様が創造なさったものは何でしたか？
2. 第3日に神様が創造なさったものは何でしたか？
3. 第4日に神様が創造なさったものは何でしたか？
4. 第5日に神様が創造なさったものは何でしたか？ 第4日までに造られたものと違う点は何ですか？
5. 神様はどんな方法で世界を創造されましたか？
6. 神様は創造されたものをどう評価されましたか？
7. 今、世界に神様の創造の業を感じることはできますか？